

建築設計第四部
Architectural Design IV

教員名	阿部 浩和 (あべ ひろかず)、小浦 久子 (こうら ひさこ) 川北 英 (かわきた えい)、平沼 孝啓 (ひらぬま こうき)							
教員連絡先 (研究室所在地・TEL)	吹田キャンパス S 1 棟 7 階 726 室、711-B 室 電話: 06-6879-7655 (06-6850-5827)、06-6879-7627							
E-MAIL アドレス	abe@arch.eng.osaka-u.ac.jp、koura@arch.eng.osaka-u.ac.jp							
履修対象	建築工学コース (3 年次)							
単位	3	セメスター					6	
受講条件	建築設計第一部、第二部、第三部を履修していること。							
授業の教育目的・目標 他科目との関連	建築計画、建築構造、建築環境等、建築に関係するすべての分野についての理解に基づき創造的総合化として建築の設計を行う。ここでは、集合による半公共空間および複合的な機能をもつ建築の設計を通して、建築空間の構想力ならびに複雑で多様な機能の構成力を習得する。							
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H
	○	○	○				○	◎
授業計画・概要	テーマ		概要					学習・教育目標
	第 1 課題 市街地における複合施設 (7 回)		大都市の市街地を対象に、複雑な機能と多様な空間の構成からなる比較的大規模な複合施設を設計する。そのため大規模施設に関わる構造の考え方と最近の動向についての知識を習得し、都市開発における設計の基礎を学ぶ (包括 2 回)。 計画においては、周辺環境への配慮や歴史的建築物の保存、社会的ニーズなど互いに矛盾する現実的な命題を理解し、各自の設計思想を通して設計案の形で解決するための高度な専門知識を身につける。(高度 5 回)					A、C、 G、H
	第 2 課題 市街地更新と共同住宅 (7 回)		歴史的市街地での新しい生活環境を提案する都市機能と集合住宅の複合空間を設計する。町家・長屋など伝統的建築形式についての基礎的知識と市街地の持続可能な開発整備について理解を深める (包括 2 回)。 地域コンテキストに基づく計画コンセプトをデザインするグループ課題と集合住宅を設計する個人課題をとおして、複数の建築物が構成する地域環境を構想する力、地域の社会的変化や周辺との関係に対応して建築的に課題を解決する高度な力を身につける。(高度 5 回)					A、C、 G、H
	総合講評 (1 回)		総合講評会において作品を発表し各審査員からの質疑に答える中で設計のプレゼンテーション能力を身につける。(高度 1 回)					B、H
教科書	日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成」、丸善株式会社							
参考図書・文献等	日本建築学会編「建築設計資料集成 [総合編]」、丸善 日本建築学会編「建築設計資料集成 1~10」、丸善							
成績評価方法・評価基準	A、Bについては、構想案、草案、概案の過程での計画案とスタディモデルによる意見のやりとりの評価 (20%) とし、C、G、Hについては、最終提出物の評価 (80%) とする。							
オフィスアワー	随時 e-mail にて対応							
コメント	定められた日程を遵守し、かつ十分な努力を払うこと。							